

旬じょうはん

情勢判断学会 東京本部
会員向けニューズレター
発行人 古川 彰久
事務局 〒252-0321 神奈川県
相模原市南区相模台 1-23-9
Tel.&Fax.
042-748-8240
<http://www.jouhan.com>
E-mail: info@iki2life.com

3 月例会ご案内

3 月 10 日 木曜日 18:30 ~ 21:00
テーマ : 城野先生の著書から学ぼう
「第三の経済学」を輪読しよう 第 6 回
場所 : 港区新商工会館
参加費 : 1000 円
担当 : 北島 徳泰

2 月例会でお話しいただく予定でしたが、北島氏のご都合で 3 月に繰り延べました。

城野宏著「第三の経済学～『経済学』の崩壊と新生」を参加者で輪読し、情勢判断学を活用してどのように経済問題に対し取り組むことができるのか、お互いに学びましょう。

城野先生は、この書の序文を昭和 48 年 3 月 22 日に書かれているが、その序文の末尾に、以下のように述べられている。

「これは問題提出の書であるといえる。解決の具体的な戦術書ではない。読者は提出された問題とその方法論を参考にし、各方面の具体的な問題を取り上げ、究明してもらいたいと思う。そして、日本国民がそれにとつとって国家の繁栄と国民のしあわせをうちたてていく経済の法則性を探り、新しい日本経済学を建立すべきである。企業の中の経済活動家も戦略方向に合致した仕事だけが栄えるものであることを認識できるはずである。」

そして、目次は以下の通りです。

序
国家戦略と経済問題
国家経済戦略の転換点
日本経済観察の出発点
アラブ・アフリカ認識の転換と
新しい日本国家戦略
ドル防衛と日本

工業農作の展開
円・ドル問題の精神構造
円切り上げと日本経済の基本構造
経済論争と国際謀略
経済問題判断基準の転換
経済学の崩壊と新生
経済観察における戦略欠乏症
日中国交正常化後の日本経済
狂った経済論議
インフレと経済成長
インフレと大衆収奪
国鉄ストと国民大衆
商社活動の戦略的分析
二つの経済学——総括提案

第 1 回は「アラブ・アフリカ認識の転換と新しい日本国家戦略」を中心に学び、お互いに意見交換を致しました。

第 2 回は、城野先生の経歴を振り返り、どのような環境の中でこのような活動をされたか再認識するとともに、「経済論争と国際謀略」を中心に学び、お互いに意見交換を致しました。

第 3 回は、石田氏が「国家戦略と経済問題」を取り上げられ、お互いに意見交換を致しました。

第 4 回は、篠原氏が「国家経済戦略の転換点」を、榊原氏が「日本経済観察の出発点」を取り上げ、お互いに意見交換を致しました。

第 5 回は、平井氏がインフレ問題を取り上げ、平井市独自の経験をもとに、戦後の日本経済の変動を取り上げ、意見交換を致しました。

今回は、北島氏に「工業農作の展開」を取り上げていただきます。

1月例会報告

1月14日 木曜日 18:30 ~ 21:00

テーマ : 城野先生の著書から学ぼう
「第三の経済学」を輪読しよう 第5回

場所 : 港区新商工会館

担当 : 平井 兵治

今回は、平井氏がインフレ問題を取り上げ、平井氏独自の経験をもとに、戦後の日本経済の変動を取り上げ、意見交換を致しました。

先月の会合の結論が、如何にすばやく時勢に負けずに、変わる知識になれるかが重要で、昨今の新聞紙面で大きく報ずる如く、東芝、シャープにして然りである。私の経験で驚いたことで昨年が一番の出来事を皆さんに報告したい。

よく利用する信用金庫での話です。

年号のことで少し手間取った話です。

中国の平成の評判を知っていたので、お宅の会社の大口の得意先の中国人〇〇さんに聞いてみなと言って、それで一別れた。

すると二日間で本支店の用紙がすっかり変更されていたのにはビックリした。

これこそが変われる組織だと心から感心した一例です。

安岡先生流の平和になるのでは通じない話でした。

グローバル社会とはやっかいな問題ですネ。

これからも先読みで金儲けしてください。

また逆に政策の修正でも金儲けは一杯にありますから注意したいものです。

是非に若者は海外雄飛を、先進国米人の青年が行った様に見習って欲しいものです。

先進国の若者として若さをぶっつけてほしいものです。

戦後70年を経済で読み解くと、早いもので、戦争に再び巻き込まれずに良く過ごせたものと感心すると同時に先人の苦勞に感謝です。

多分、昭和20年8月15日頃には新聞では敗戦と占領軍は毎日毎日大きな字で紙面に舞っていた事を忘れないし、その記憶はしっかりしている。

所が何時の日か、新聞記者だろうか、文化人が終戦と進駐の字にすり替わったことは今でも嘆かわしくてならない、何故か——、日本人自身が真に反省しないまま過ぎ去ってしまったかと思えてならないからです。

さて本題に戻ることにして、敗戦後6ヶ月も経過しない内に、ダレス長官の下で作業した経済学者によるインフレ退治作戦である。

昭和21年2月17日に、極秘で旧円封鎖令は見事だったことを思い出す。後日、当時の仕事の関係者に聞いてみた、大変だったらしい。

不思議にも今年2月14日の0金利の発表とこの因縁は何なのだろうか——

円：360円のお蔭で、第2次世界繊維産業への進出で米国でのワンダラブラウス時代作り出した。

つづいて軽工業のライターへと移り進む。

そしてブリキの玩具、朝鮮事変では完全につぶれた京浜工業地帯が生き吹き消す発展へと進む次第、人手の面では少し遅くなるが37~38年には転職するごとに倍になった。

商品供給の面でも35~36年には市場で乱売競争が始まる。

37~38年は粗利のない産業の合併が進行した。日本の高度成長も48年の石油ショックまでは順当に進んだが、此の期に国債発行が進んで行くこととなる。

こう云った経済史通に、50年を経て先年タイで起こるのを見た。

これから、日本は、貿易収支が示す通りに海外投資に向かわざるを得ないことは先進35ヶ国への仲間入りの証拠であって後戻りはできない。

70年の経済史をもって世界に出よう。

心配なく進出する者に味方する。

